

日本人の歯の多様性と日本人のルーツ

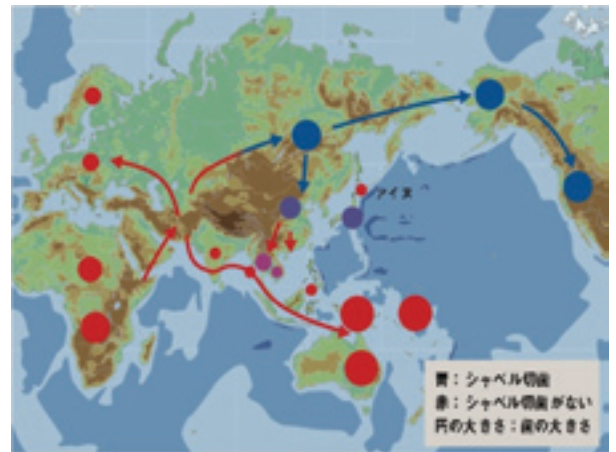
多様な遺伝子の集合体日本

筆者は26年前に「矯正を臨床で生かす会」を立ち上げ、すでに240回になるまで会を重ねている。当時はそれほど矯正治療を行う歯科医は多くなかったが、最近不思議と増えた。それに伴い他医院でなされた矯正治療後の再治療ケースが増えてきている。このままではかつてのインプラント治療の二の舞になるのではと危惧している。

そこで、はじめに知っておくべきことがある。それは日本人の歯は、小さな歯から大きな歯まで、厚いシャベル切歯から非シャベル切歯まで多様であるということである。これはストレートワイヤー法などの標準化された対応ですべてがうまくいくわけではない、ということの意味する。この多様性は日本人のルーツによることが多い。日本はユーラシア大陸の東の果て、これ以上東は太平洋しかないという立地である。サハリン経由で日本に来た縄文人、朝鮮半島から来た別の縄文人、渡来系弥生人も朝鮮半島だけでなく長江下流域の江南から直接に日本に来ている。そしてすべての遺伝子が日本列島で蓄積されて、他ではみられない遺伝子の多様性を示している。これは日本人の顔が一人ひとり違うように、歯もばらばらなのである。

1. 非シャベル切歯・小さな歯の縄文系とシャベル切歯・大きな歯の弥生系

日本には小さな歯で非シャベル切歯をもった縄文系と、大きな歯でシャベル切歯をもった弥生系が混在している。縄文系の歯と弥生系の歯はどこから来たのであう。右の図は世界における歯の大きさとシャベル切歯の出現率を表している。シャベル切歯は出アフリカを果たした後に最終氷河期にシベリアに到達した人のみにみられる。弥生人のシャベル切歯は寒冷地に適応した人たちだということがわかる。



(林 治幸『シャベル切歯を持つ日本人の歯の矯正 MEAW+矯正用アンカースクリューがもたらす前歯部の審美と臼歯部の長期安定した咬合』砂書房, 東京, 2013. より引用)

日本人の歯は小さな歯から大きな歯まで、シャベル切歯のあるものからないものまでさまざまである。これは日本人の成り立ちに起因している。



▪ 21|12のサイズは小さく、シャベルは痕跡程度



▪ 21|12のサイズは小さいが深いシャベル



▪ 21|12のサイズは大きくダブルシャベルだが、深さはわずか



▪ 21|12のサイズは大きい为非シャベルである



▪ 21|12はやや大きく深いシャベルである